

8月



<https://www.homemate-research-tour.com/> より引用



あの日のあの川 リレー日記 ～第57話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第57話主人公 早川由里子

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：東京都多摩川)

「川沿いでサイクリング」

いつのこと？：中学生

どこの川？：岐阜県荒城川

皆さまこんにちは。鎌田くんよりバトンを受け取りました、筑波大学白川研究室の早川由里子です。私は幼少期、屋外で遊ぶのが大好きでした。もちろん、今でも好きです。そのため川での思い出はたくさんありますが、今回は岐阜県の荒城川での思い出を書きたいと思います。よろしくお願いします。

毎年夏休みは、家族で岐阜県にある祖母の家に遊びに行きます。小学生のころ、祖母の家では、よく妹と2人でカエルを追いかけたり、サイクリングをしたりしました。今となってはもう、カエルは触れませんが、当時は田んぼや用水路で虫取り網を構え、カエルを捕まえていました。そして、捕まえたカエルを一か所に集めて喜んでいました。サイクリングに行く時は、地図を見ずに覚えられたところまで行って帰ってくる、というのが2人のルールです。初めは全てが知らない道なので、気分は冒険家です。全く知らな

い道に地図なしで行く機会もあまりなかったため、全てが新鮮で楽しかったのを覚えています。この他にも、自転車でフィギュアスケートの演技を真似して遊ぶなど、とにかく屋外にいたため、夏休み明けは真っ黒に日焼けして登校するという典型的な幼少期を過ごしました。

そんなある日、私は中学生、妹は小学生だったと思います。私と妹はサイクリングで荒城川を上流に沿って遡ってみることにしました。連絡手段もない状態で、川をたよりに知らないぼこぼこ道を進みます。自転車版インディ・ジョーンズです。川沿いの大きな神社に立ち寄り涼んだり、田んぼの中に広がる大きなソーラーパネルに驚いたり、土砂が崩れの起きた山を見て地球の壮大さを感じたり、と知らない土地を存分に楽しみました。川沿いの風はとても涼しく、木陰もあるので、絶好のサイクリングコースでした。川沿いでサイクリングは、こんなにも気持ちがいなものなのかと思いました。

豊かな自然の中を進むと、景色はどんどん変わっていきます。スタートした場所は比較的川幅も広く、階段を下りると水に触れます。しかし、上流に行くにつれて、川幅は細くなり、岩もごつごつしてきます。川がきれいだったのに、近寄れず水を触ることができなくて、とても残念だったのを覚えています。道中には牛小屋もあり、黒毛和牛が寝ていました。川沿いの陰でのんびり休めて、気持ち良いだろうな、と思いました。上流の方に進むにつれて、道は険しくなり、ついに崖沿いを通る道にたどりつきました。崖沿いの道は、ガードレールしかついておらず、もし自転車で転んだら、と考えると、とても怖かったです。今思い返しても、ヒヤヒヤします。

ずっと川沿いを進んできたので、道に迷うことは心配していませんでした。しかし、思わぬことで気がめいました。トビです。上空の近い場所をトビが旋回していました。2人でトビを眺めていると、トビがこちらに襲い掛かってきたのです。お菓子を持っていたわけでもないのに、トビに急に襲われて、とても驚きました。周りに人がいなかったため、どうしようかと思いました。負けた、やられた、と思いました。すると運のよいことに、家を出てから2〜3時間たっていたため、母親が心配して車で迎えに来てくれました。車が来たのでトビは逃げていき、2人ともケガはありませんでした。結局同じ川沿いの道を車に乗って帰りました。

以上が荒城川の思い出です。この経験から、自分の無力さと、川沿いの気持ち良さを知りました。今は便利な世の中なので、家から一歩も出ずに生活できます。しかし、たまには自然豊かな場に行き遊んでみると、新しい発見があるかもしれません。最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

(次は池田望さんにバトンを託します)